

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
15	札幌医科大学医学部薬理学講座
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Moderate alcohol consumption lowers the risk of type 2 diabetes: a meta-analysis of prospective observational studies.</p> <p>中等度のアルコール消費は 2 型糖尿病の発症危険性を低下させる: 前向き観察的研究のメタ分析</p>	
<b>執筆者</b>	
Koppes LL, Dekker JM, Hendriks HF, Bouter LM, Heine RJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Diabetes Care. 28(3): 719-725 (2005)	
<b>キーワード</b>	
アルコール消費、2 型糖尿病、メタ分析、発症危険性	
<b>要 旨</b>	
<p>目的: アルコール消費と 2 型糖尿病の発症率との関連についてはいくつか報告がある。それらの報告では中等度のアルコール消費は 2 型糖尿病の発症率を低下させることが示唆されているが、多量飲酒の場合との関連、性差、BMI (肥満度)、2 型糖尿病の形態など、影響する因子の不確定な部分もあり結論的ではない。そこで、本研究ではアルコール消費と 2 型糖尿病の発症危険率、交絡因子の調整効果、2 型糖尿病の定義・性差・肥満度などによる修正効果との関連性について検討するため、これまでに発表された結果についてメタ分析を行った。</p> <p>方法: 15 の前向きコホート (総数で 369,862 人、そのうち 2 型糖尿病患者が 11,959 人から構成され、平均で 12 年間の追跡調査が行われた) について解析した。</p> <p>結果: 集積結果の解析で、アルコール消費量と 2 型糖尿病発症危険率で U 型の相関関係が得られた。非飲酒者と比較して、1 日 6 g 以下の飲酒者での 2 型糖尿病の相対発症危険率 (PR) は 0.87 であった。中等度飲酒者で 1 日当たり 6-12 g、12-24 g、24-48 g のグループの PR はそれぞれ 0.70、0.69、0.72 であった。多量飲酒者 (1 日あたり 48 g 以上) では非飲酒者と差はなかった (PR、1.04)。一般的に、中等度飲酒と PR 値の低下との相関関係は男性の場合の方が統計的に確かな傾向であった。各個人での肥満度の違いは PR 値の低下に影響しなかった。</p> <p>結論: この観察的研究から得られた知見は、中等度のアルコール消費者では 2 型糖尿病の発症危険率が約 30% 低下することを示唆している。一方、1 日 48 g 以上飲酒する人では発症危険率の低下は認められなかった。</p>	